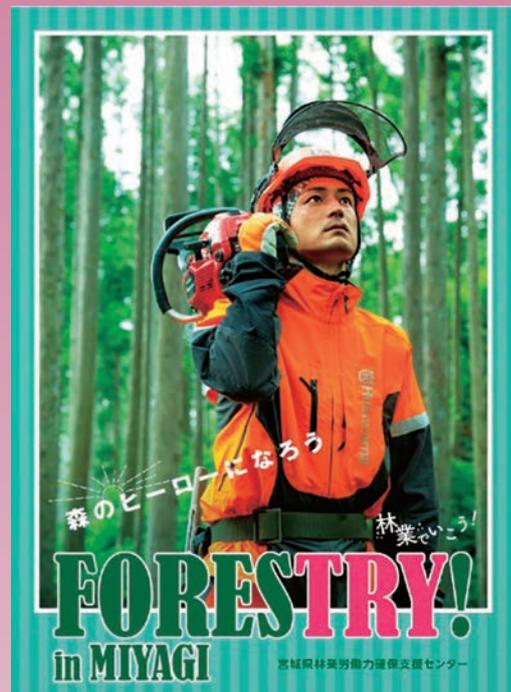


みやぎの 林業だより



特集

林業担い手対策の強化

～「みやぎ森林・林業未来創造機構」による
若い世代が魅力を感じる森林・林業の創造～

表紙写真

(左) みやぎ森林・林業
未来創造機構設立総会
(R2.12.15)
(右) 「FORESTRY！」
就業支援パンフレット・
ポスターに憧れの森の
ヒーローが登場

目

次

話 題 ◎特集：林業担い手対策の強化

～「みやぎ森林・林業未来創造機構」による若い世代が魅力を感じる森林・林業の創造… 1～2

- ◎令和二年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰及び
令和二年度全国育樹活動コンクール農林水産大臣賞伝達式…………… 3
- ◎感謝状の贈呈…………… 3～4
 - ・宮城みどりの基金への寄附
 - ・森林づくり・木づかい表彰
- ◎みやぎの木づかい運動2020…………… 5
- ◎「令和二年度宮城県農林産物品評会(林産物部門)」「宮城県山の幸販売会」… 5
- ◎林業する人、林業したい人集まれ！…………… 6
- ◎柴田農林高校生への支援…………… 6
- ◎令和元年東日本台風災からの復旧のご報告…………… 7
- ◎「わたしたちの森づくり事業」活動報告…………… 8
- ◎「森林土木業務成果発表会」が行われました…………… 8
- ◎「くりはらの苔ふれあいフェア」の開催…………… 9
- ◎森林環境譲与税の活用に向け黒川・仙台ブロックによる会議を開催… 9
- ◎駆除・捕獲されたニホンジカの「ジビエ」としての活用…………… 10
- ◎林業体験(わさび栽培見学)を実施…………… 10
- ◎宮城県図書館「情報エントランスみやぎ」への出展について…………… 11
- ◎令和三年度宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集…………… 11
- ◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 12

市 況

令和2年12月21日
発行

222号

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



特集

林業担い手対策の強化

「みやぎ森林・林業未来創造機構」による 若い世代が魅力を感じる森林・林業の創造

去る十二月十五日「みやぎ森林・林業未来創造機構」が設立されました。県が十月に策定した「宮城県林業担い手対策強化推進方針」の柱となるプロジェクトとして、関係者が一丸となって連携・協働しながら、林業の就業環境向上と人材確保・育成対策を進め、次世代に繋ぐ森林・林業の創造を目指します。これまでの検討経緯と今後の展開（方針書の概要）について紹介します。



発起人代表村井知事の挨拶
(共同代表 左：宮城県水産林政部長
右：(公財)みやぎ林業活性化基金理事長)

方針策定のねらいと検討状況

県は、「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」に基づき林業担い手対策を進めています。本格的な人口減少社会を迎え、就業者の確保が一層困難になると見込まれています。このため、対策の強化に向け、調査・検討、関係者の意見集約を行い、取組の推進方針を定めました。

(1) 担い手の現状と課題を分析

県は、新規就業者数の目標を年間百人と設定していますが、人材獲得競争が厳しくなる中、近年の実績は半分程度にとどまっています。要因としては、他産業に比べ給与が低く労働災害発生も多いこと、就業を促す情報発信が不十分であることなどが挙げられています。

また、「緑の雇用」事業は、就業者の確保とキャリア形成に貢献していますが、近年は研修生が減少しており、制度利用の制約や、研修後の定着率向上に向けた取組が課題になっています。

(2) 社会や地域動向の取り込み ☆林業担い手への期待の高まり

地球温暖化に伴い自然災害が多発しており、県土保全や低炭素社会に向けて、森林の整備や循環利用を的確に担う事業者・人材が一層求められています。

☆震災後の若い世代の活躍

人口減少下で地域の活力低下が懸念される中、FSC認証取得、広葉樹活用、自伐型林業の普及など、新たな視点で森林を活かし地域を元気づけ、若者を引きつけている事例があります。

(3) 全国の先行事例を調査

林業を目指す若者を技能者に育成する林業大学校が全国的に増えています。課題として、就業後の「緑の雇用」との競合、森林に関わる多様な就業パターンに柔軟に対応できない、既就業者に対し技術習得の機会を提供できない、卒業生が安心して生計を立てていける就業環境の整備が不十分といったことが挙げられています。

これらを踏まえると、多様な課題に柔軟に対応できる人材確保・育成システムの構築と、林業の就業環境・経営面の改善を一体的に推進する体制づくりが重要になっています。

(4) 多くの方々からの意見聴取

認識を共有し対策を推進するため、事業者、現場従事者、林業研究会、NPO、学識者、市町村等に協力をいただき、アンケート（回答七十三通）とヒアリング（六十八名）を行い、方針の主要部に係る意見をいただきました。また、方針の中間案について意見照会したほか、三地区で意見交換会を行いました。

(御意見の一例)

▽産業界・地域・行政が連携し林業担い手の確保・育成対策を強化すべき。

▽新たな価値創出、SDGs、生物多様性保全など、従来の林業の枠組みを超えた方向性を打ち出すべき。

▽高い安全性と生産性を実現し他産業並みの就業条件整備、特に若い世代の待遇改善、将来不安の払しょく、やりがいの持つ職場環境の整備を図るべき。

▽事業者の就業者だけでなく、事業者起業、自伐型林業、森林資源活用を目指す若い世代の育成・支援も行うべき。

▽県の研究・普及指導機能を活かしたプラットフォームを作り、地域の林業研究会やNPOとも連携を図るべき。

●今後の展開
●対策強化の柱と目標

人口減少社会を迎える中、これまでの林業の姿のままでは、担い手の確保が一層困難になるという認識を産業界・地域・行政で共有し、若い世代が林業に魅力を感じられるよう、多様な主体の連携・協働により、宮城県独自の「就業環境向上」と「人材確保・育成」を一体的に展開する仕組みを構築して、持続可能な循環型産業・地域活力を生み出す森林活用型産業へと森林・林業分野の成長をけん引する担い手の輩出を推進します。

●林業事業者の振興や人材育成で目指していく方向

- ▽森林の整備・保全や循環利用（再造林の実行）を的確かつ積極的に推進する担い手の確保。
- ▽森林経営管理制度、高効率な作業システム、スマート林業の展開により、森林の経営管理・生産・流通面の改革をリードできる担い手の確保。
- ▽地産地消型木質バイオマスエネルギー事業、自伐型林業、広葉樹の高度利用、森林サービス

事業など、新たな価値創出に取り組む担い手の確保。

▽SDGs、森林認証、流域や生物多様性の保全に、より配慮した森林経営管理に積極的に取り組む担い手の確保。

●プラットフォームの構築

森林・林業関係団体、行政・教育機関、研究者、指導林家等に呼びかけ、「就業環境向上」と「人材確保・育成」の仕組みづくりと、その展開を推進する基盤・母体となる「みやぎ森林・林業未来創造機構」が設立されたことから、今後は、人材確保・育成に関する認知度上昇と研修参加の促進に向けて、「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」として研修の体系化を進めます。

●重視する方向・基本姿勢

- ①就業環境の整備や就業支援に関わる機関は、「機構」の下で各取組を効果的・体系的に連携させ、一体的な展開を図ること。
- ②産業界全体が参画して担い手を支える仕組みを構築すること。

(取組方向)

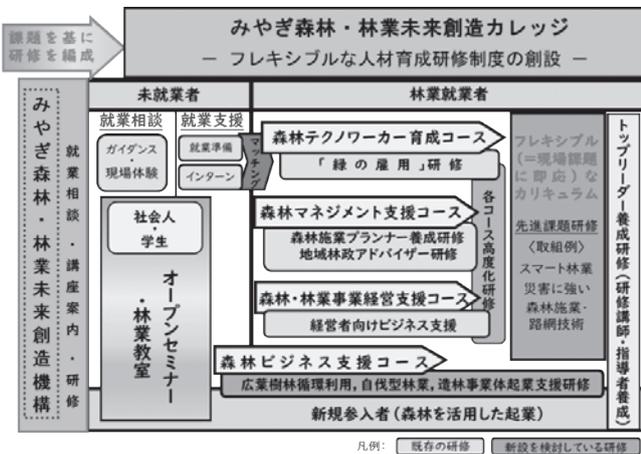
▽所得の向上や労働安全衛生の確保など他産業並みの就業条件の整備、若い世代が将来像を描き、安心して、やりがいを持って働ける環境の整備に向け、経営

強化モデル等を検討し人材育成を図りながら事業者の経営強化や新規事業展開を促進します。

③若い世代の就業促進や森林・林業分野の成長、地域活力の向上に資するフレキシブルな人材育成研修制度を創設すること。

(取組方向)

▽森林・林業の役割や就業の魅力を普及するため、オープンセミナー、「林業教室」(森林・林業・木材入門コース)、森林・林業学習、木育活動を推進します。▽学生や転職希望者が林業の現場に触れながら就業を検討できる機会の充実を図ります。



▽林業に従事する現場技能者・事業管理者・経営者に対応した研修コースに加え、各コースの高度化、先進課題や現場ニーズに応じた研修を設定します。

▽事業者起業、自伐型林業、広葉樹活用など、新たな森林ビジネスを志望する人材を支援するコースを設定します。

④林業技術総合センターが「機構」の事務局を担い、研究や普及指導の機能を活かし、多様な主体が交流するプラットフォーム形成を促進します。

みやぎ森林・林業未来創造機構 設立総会・第1回総会開催

知事と、担い手対策のパートナーである(公財)みやぎ林業活性化基金理事長の呼びかけに賛同した四十三者により設立が決議され、機構として目指すビジョンや「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」の人材育成プログラムなどの検討が開始されます。今後、機構からの積極的な情報発信に努めてまいります。多くの皆様の研修への参加をはじめとした、活動への参画を期待しております。

(林業振興課・

林業技術総合センター)

**令和二年緑化推進運動
功労者内閣総理大臣表彰及び
令和年度全国育樹活動コンクール
農林水産大臣賞伝達式**

長年、みどりの少年団育成活動に尽力された『浅野貴男』氏及び地域の緑化活動等に貢献された『宮城県立支援学校小牛田高等学園』が「令和二年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されました。

また、県内で森林教室や育樹活動等を実施している『(公財)ニッセイ緑の財団』が「令和二年全国育樹活動コンクール農林水産大臣賞」を受賞されました。これらの授賞式が新型コロナウイルスの影響により中止となったため、令和二年十一月十日に県庁にて遠藤副知事より伝達いたしました。

受賞された浅野貴男氏からは、「連絡をいただいた際には家族で喜びを一緒にした。これからは子供達の緑に親しむ心を養っていききたい」と述べられました。

宮城県支援学校小牛田高等学園からは、「地域との絆を大切にしながら活動を継続していき

たい。今後とも私たちのことを是非見守っていただきたい。」と述べられました。

ニッセイ緑の財団からは、「これから森林づくりや森林を愛する人づくりに貢献できるよう取り組んで参りたい。」と述べられました。

祝辞において遠藤副知事からは、「受賞された皆様の緑を広める活動は、地球温暖化等の環境変化が進行する現在において、大変重要な取組であり、今後も引き続き御協力願いたい。」と述べました。



賞状の伝達

(自然保護課)

感謝状の贈呈

「宮城みどりの基金」への寄附

平成二十八年から五年連続で「宮城みどりの基金」へ多大な寄附をいただいている株式会社村井林業に対し、令和二年九月七日に村井知事が感謝状を贈呈いたしました。

贈呈式では、村井知事より「村井林業からは総額一千五百万円もの寄附を頂き、一万本以上の植樹に活用させていただいている。長年の寄附に感謝申し上げます」と謝辞を述べました。

村井八郎会長からは、「これか



感謝状の贈呈



百万本植樹事業

らも、木を切ったら植えることを広げて行きたい。」と述べられました。

宮城みどりの基金はみどり豊かな県土をつくることを目指し、平成五年に創設されました。

この基金を活用した事業の一つに、「百万本植樹事業」があります。この事業は自ら植樹活動を行っている地域団体等に対し、県が苗木を配布するものです。これまで約十九万八千本の苗木が県内各地に植樹されています。

県では、宮城みどりの基金への寄附について随時募集しております。県内の金融機関に募金箱を設置しているほか、申込み書による寄附も受付けています。

県内のみどりを増やす取り組みに是非御協力下さい。

(自然保護課)

森林づくり表彰・木づかい表彰

県では、森林整備活動(森林づくり表彰)や木材利用促進活動(木づかい表彰)において、特に功績があった団体等へ感謝状を贈呈しています。

令和二年十一月六日に村井知事が感謝状を贈呈いたしました。令和二年度は、森林整備活動や林業就業者の育成を継続的にしている団体及び県産木材を積極的に活用している団体等が選ばれました。



感謝状の贈呈

森林づくり表彰団体の紹介

県内の森林整備に貢献し受賞された二団体です。平成三十年から表彰がはじまり、今年で三回目となります。

①(特非)リアスの森応援隊 (気仙沼市)



森林に関する講習会

二十四年以降、「森のアカデミー」講習会を毎年開催。これまでに延べ六百名以上の修了生を輩出されました。

②(公財)ニッセイ緑の財団 (東京都)



森林づくり活動

利府町内の県有林において、「わたしたちの森づくり事業実施協定」により、

社員等が植栽、保育、歩道整備等の活動を継続的に実施されました。

木づかい表彰団体の紹介

県内の木材利用の促進に貢献し受賞された三団体です。平成十九年から表彰がはじまりました。

①仙台ターミナルビル株式会社 (仙台市)



仙台駅ビル構内の木製インフォメーションカウンター

自ら担い手となった地域の森林整備を行う「自伐型林業」の実現を目指し、平成

②石巻地区森林組合 (石巻市)

日頃より、石巻地域で生産される木材・木製品の利用促進に積極的に取り組まれており、令和二年一月に竣工した事務所は、県産



オール石巻による木造の事務所

CLTやLVLなど地域材製品を使用し、地域の職人が設計・施工を担う「オール石巻」としての象徴的な木造建築物となっております。

③シネジック株式会社 (富谷市)



一部CLTを使った社屋

木造建築における構造用ビスの開発・販売等を行っており、木造建築に重要な役割を担われています。平成三十年十二月に竣工した社屋には、県産CLTが使用されており、木造建築の可能性を広くPRするため、社屋の見学会を随時行われています。



記念品「宮城県産苔テラリウム」

感謝状を受賞された皆様、おめでとうござります。(林業振興課)

みやぎの木づかい運動 2020

県産材の利用促進を図る県民運動「みやぎの木づかい運動」の一環として、「第十三回みやぎの森林・林業写真コンクール（公益財団法人みやぎ林業活性化基金主催）」及び「第十三回みやぎ児童木工工作コンクール（宮城県木材同友会主催）」が開催されました。

みやぎの森林・林業

「写真」コンクール

県内外から四十七名（二十代～八十代）、百十九点の応募があり、厳正なる審査の結果、入選作品八点が決定されました。入選作品は県庁二階東側回廊（令和三年一月十二日～十五日）で、出展作品は県民の森展示室



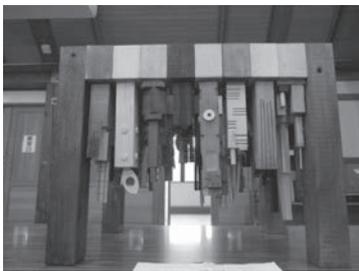
「写真」コンクール
最優秀賞（県知事賞）受賞作品
（令和三年）
二月一日～三月
二十一日で、
それぞれ
展示され
ます。

みやぎ児童

「木工工作」コンクール

県内の小学生から一〇四点の応募があり、各地方振興事務所（地域事務所）での審査を経て、本審査が行われた結果、低・中・高学年の各部門において、それぞれ六点の入賞作品が決定されました。

入選作品は、県庁一階ロビー（令和二年十月五日～九日）で、出展作品は、宮城木材文化ホール（令和二年九月二十六日～十月二十四日）でそれぞれ展示され、十月二十四日に宮城木材文化ホールにて表彰式が行われました。
最優秀賞（県知事賞）を受賞した三作品は、日本木材青壮年団体連合会主催の全国大会に出展されます。



「木工工作」コンクール
最優秀賞（県知事賞）受賞作品
（高学年の部）

（林業振興課）

令和二年度

宮城県農林産物品評会

宮城県山の幸販売会

（林産物部門）



受賞された出品物の展示（10月29日）

令和二年十月二十八日に、農林産物品評会（林産物部門）の審査が行われ、出品された生しいたけ三十二点、木炭三点のうち、特に優秀な生しいたけを農林水産大臣賞として選定しました。

出品物は、令和二年十月二十九日に県庁玄関ロビーにおいて、展示・販売を行いました。

【審査結果】

- ① 農林水産大臣賞
生しいたけ
安達千恵子（仙台市）
- ② 林野庁長官賞
生しいたけ
浅井 修（大和町）
- ③ 食用茸協同組合長賞

生しいたけ

千田浩平（栗原市）

④ 森林組合連合会長賞
生しいたけ

佐々木久男（大和町）

⑤ 林業振興協会会長賞
生しいたけ

株式会社ワンズしいたけランド（登米市）

⑥ 特用林産振興会長賞
木炭 井上鎮夫（七ヶ宿町）

また、十月末に県庁ロビー

において「宮城県産山の幸販売会」を開催しました。原木しいたけ、なめこ、きくらげ、たけのこ水煮、木炭、苔テラリウム等、計十一団体が多彩な山の幸を販売し、多くの方にご来場いただきました。次回は、県庁ロビーにおいて、十二月十四日から十八日、二月十五日から十九日の開催を予定しておりますので、ぜひご来場ください。



宮城県産山の幸販売会

（林業振興課）

林業する人・林業 したい人集まれ!

県では、林業への就業を志している皆さんや、就業後の皆さんへ、各種講習会や研修会などを開催しています。

新規林業就業者育成研修

今年度は、新規林業就業者八名の皆さんと、土・日曜日を中心に十日間の研修を行っています。十日間のカリキュラムは左記のとおりです。来年度も、同様の研修を行う予定です。

回	月日	曜日	研修項目
1	9月27日	日	林業の基礎・現場からの声・安全教育
2	10月3日	土	刈払機安全衛生教育
3	10月17日	土	チェーンソー特別教育
4	10月18日	日	
5	10月31日	土	伐倒実習(伐倒練習機を使用)
6	11月8日	日	
7	11月22日	日	林業機械等シミュレーション体験
8	12月5日	土	現地視察・実習(2か所分散)
9	12月12日	土	現地視察・実習(2か所分散)
10	12月19日	土	林業施設見学・合同面接会



森林施業プランナー養成研修

森林施業プランナー養成研修

森林経営リーダーによる、「森林施業プランナー」の養成研修を行いました。今年度は六月二十四・二十五日の二日間にかけて行い、四名の参加がありました。

県では、引き続き、林業に関する相談会や体験会、各種研修会を開催していく予定です。御興味のある方は、県林業振興課林業基盤整備班(☎〇二二(二二一)二九一三)まで、お問い合わせください。

(林業振興課)

柴田農林高校生への支援

県では例年、柴田農林高等学校「森林環境科」の二、三年生を対象として森林施業、高性能林業機械の操作、森林作業道作設等の知識の習得及び体験実習を開催しています。

高校二年生への支援

「みやぎの森林・林業の概要」及び「林業機械の基礎知識」について県職員が座学講義し、柴田農林高校の演習林において「トゥールパルス」や「ワイゼ式測高器」等を活用した樹高等の測定実習を行いました。また、森林組合の素材生産現場において、プロセッサとフォワーダのオペレーターの指導の下、生徒全員が伐採木の造材や積込・運搬を実践しました。

高校三年生への支援

高校の演習林近くの森林で森林整備等を行う団体から、活動内容や今後の森づくりの展望等を聞きました。

また、作業道の線形を検討する時間を設け、グループ毎に意見を出し合い、地形図に線形を書き入れ発表しました。現地では、実際の線形を確認し、縦断・



作業道の線形検討



フォワーダ操作体験

法面勾配の計測方法も体験しました。線形設定の難しさを実感するとともに、作業道の必要性が理解されました。

(大河原地方振興事務所)

令和元年東日本台風災 からの復旧のご報告

◆北部管内からのご報告◆

令和元年東日本台風により、大崎市にある岩出山城跡で、山腹崩壊が発生しました。

山腹崩壊により、土砂流出などが発生し、農業用水路の埋没のほか、対岸の遊歩道も通行止となりました。



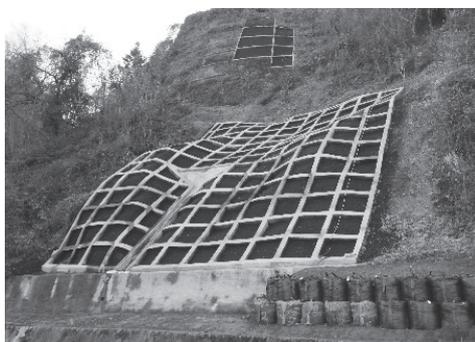
土砂流出により
通行止めとなった遊歩道

埋没した農業用水路は、「内川」と呼ばれ、伊達政宗公の命によって開削されたもので、現在においても、大崎耕土約三千三百畝に配水する農業用水路としての役割を果たしているほか、地域の憩いの場としても親しまれています。

崩壊した斜面は、降雨等により再度崩落の危険があったことから、令和元年度に国の災害関連緊急治山事業の採択を受け、早期復旧を図っています。崩落の危険性がある土砂を取り除いた後に、斜面の安定化を図るため、法枠工による工事を



復旧工事が進む法面



工事完成した法面

行いました。自然災害から、皆さんの安全な暮らしを守るため、工事を完成することができました。
(北部地方振興事務所)

◆気仙沼管内からのご報告◆

令和元年東日本台風により、気仙沼地方振興事務所管内(気仙沼市、南三陸町)では、六十二路線、延長四万九千九百七十三メートルの林道被害が発生しました。

林道に加え、市町道、農道、河川敷など、被害は広範囲にわたり、被害状況の把握には相当の労力を要しました。

また、被害調査や、国による災害査定受検に際しての基礎資料の作成においては、準備が思うように進まない状況にあり、限られた県、市町職員で苦慮していたところ、国(林野庁等)の職員が九名、一週間に渡って、派遣されることとなりました。

約一ヶ月間、気仙沼市で八路線十箇所、南三陸町で十一路線十九箇所にわたる災害査定が行われる中、国の職員により、災害査定に必要な復旧工法の検討や作図、数量計算等への業務支援が行われました。

国の職員と行動を共にする中で、災害査定を受ける際に必要な、スピード感を肌で感じる事ができました。

気仙沼管内では、新たな取組として、木質バイオマス発電のための間伐材等の購入に地域通貨を活用した取組、東日本大震災からの復興に森林認証材を用いる動きなどが、広まっております。

林業の基盤となる林道は、早期の復旧が望まれていることから、一日でも早い復旧に向け、林道施設災害復旧事業等をすすめていきます。



災害査定に向けた打合せ

(気仙沼地方振興事務所)

「わたしたちの森づくり事業」活動報告

森林は、木材などの林産物の供給のみならず、水源かん養や土砂災害防止、地球温暖化の緩和などの多面的機能を有し、私たちの暮らしを支えています。近年CSR活動（企業の社会貢献活動）の一環として、森林整備活動に取り組み企業や団体が増えていることから、県では、森づくり活動に取り組みうとする企業・団体等に、県有林を活用していただく、「わたしたちの森づくり事業」を実施しています。

この事業では、県と団体等が五年間の協定を結び、県有林を森づくり活動の場として活用してもらい、希望により、森の命名権を有償で取得できます。平成十八年度からスタートした事業で、現在も十二の団体等（十三協定）が森づくり活動に取り組んでいます。

なお、「森づくり活動に取り組みたい！」という新規の相談も随時受け付けております。

フォレストメイキングタイプ
県と団体等が協定を結んで、取り組みやすい森林整備活動を、県有林の中で、団体自らが行うもの。

フォレストパートナータイプ
県と団体等が協定を結んで、間伐などの本格的な森林整備活動を、県有林の中で、団体と県が協同で実施するもの。

どちらのタイプも、森づくり活動に加えて、自然観察会等のイベントが実施でき、社員ご家族、顧客の皆さんとのふれあいの場に加えて、地域の交流会の場にもなります。



森づくり活動(歩道整備)

(森林整備課)

「森林土木業務成果発表会」が行われました

治山林道事業を担当している職員による、日頃の成果を発表する「森林土木業務成果発表会」が、七月三十一日(金)に東北自治総合研修センターで開催されました。

最優秀賞

「UAVを活用した海岸林の生育調査」
仙台地方振興事務所

津波被害の復旧のため、大規模に造成した海岸林において、ドローンを利用した生育状況調査手法の検討が行われ、人力調査に比べてドローン空撮調査は調査時間が三分の一で済み、防風柵や排水路に阻まれることもなく、労働負荷がとて軽いのことです。

優秀賞

「開設工事におけるCLTの活用事例について」
東部地方振興事務所
登米地域事務所



表彰式

CLTを林道の仮設の橋に用いたところ、課題とみられた耐久性にも問題がないことが確認されました。据え付き易さや走行性などが評価できること、他、仮設以外の本工事の土木資材としても有効であるのではないかと、この提案がありました。

また、発表会において、大河原地方振興事務所から丸森町での令和元年東日本台風における、山地や林道の災害復旧の取り組みについて発表されました。新潟県から応援にきていただいている職員より、力を合わせて復旧を薦めていくとの力強い応援の言葉をいただきました。大規模な災害調査を関係機関と連携しながら進めた今回の取組が、万が一の災害発生への対応力の強化に繋がるように、職員全体で継承していくことが重要であると、改めて実感する機会となりました。

(林業振興課)

「くりはらの苔 ふれあいフェア」の開催

十月二十四日(土)、山の駅くりこま(栗原市)を会場に「くりはらの苔ふれあいフェア」が開催されました。

この催しは、栗原地域の「苔」の産地化を目指した、昨年の「全国苔フェスティバル」に続いて開催されたものです。

今年は、新型コロナウイルス感染症防止に配慮して行われませんでした。

フェアの開始時間に併せて、栽培が容易なハイゴケ・エゾスナゴケ栽培キットを無料で配布したところ、瞬間に配布が終了しました。

今年は、苔を扱う五者(栗原市二者、石巻市一者、仙台市一者、山形市一者)による関連商品の販売のほか、苔テラリウムや苔玉ワークショップも行い、来場者からは「これまでよく分からなかった苔の扱い方を学べて良かった。」などの感想をいただきました。

約七百人の来場者があり、栗原の苔の凛とした美しさなどを実感してもらうことができました。



苔テラリウムの製作体験



苔の品定めをする来場者

た。今後は、「生産技術の更なる向上」や「事業者間の連携」を目指して、展開を図っていきま

(栗原地域事務所)

森林環境譲与税の活用に向け黒川・仙台ブロックによる会議を開催

今年度から国の森林環境譲与税が増額交付されることになり、譲与税を活用した森林整備や森林経営管理制度のより一層の推進が求められています。管内には森林面積や譲与税の交付額が異なる十四の市町村がありますが、地域の森林に精通し森林整備等の受け皿となる森林組合が二つしかない状況です。そこで、森林整備や経営管理制度の受け皿として森林組合だけではなく、林業事業者の協力も不可欠であることから、市町村と



仙台ブロックでの開催状況

森林組合、意欲と能力のある林業経営者による打合せ会を、八月二十七日に黒川ブロックを、九月十五日には仙台ブロックで開催しました。

会議では、当事務所から森林環境譲与税について、森林経営管理制度に拘らず、協定等の締結や市町村の単独事業による森林整備への活用も可能であることとを、他県の事例等を交え説明しました。また、森林経営管理制度については、集積計画の必要性を検討し区域を絞って実施することにより、森林整備を推進することを提案しました。

市町村からは単独事業により譲与税を活用したいなどの意見が聞かれたほか、事業者からも計画的に森林整備が実施されるのであれば協力は可能であるなどの前向きな意見も聞かれました。

当事務所では、管内の市町村や森林組合等の連携を強化するため、定期的にブロック毎の打合せ会を開催するとともに、各市町村における森林整備等の方針の早期策定に向け支援を行い、譲与税の活用等による森林整備の推進を図ります。

(仙台地方振興事務所)

**駆除・捕獲された
ニホンジカの
「シブヒ」とっこの活用**

東部地域(石巻市・女川町)では近年、ニホンジカの増加と生息域拡大により、林業被害のみならず農業被害や交通事故発生などが社会問題として深刻化しており、効果的な被害対策を地域から求められています。

その一環として、関係者で組織する「牡鹿半島ニホンジカ対策協議会」が主体となり、銃や罠を使い、毎年二千頭程度のニホンジカを有害鳥獣駆除や個体数調整などで捕獲しています。捕獲したニホンジカについては、そのほとんどが活用されず埋設等処分されていますが、近年、狩猟従事者を中心に野生鳥獣肉(ジビエ)利用へ向けた取組が行われています。

現在、東部地方振興事務所管内の三つの事業体が食肉加工や加工製品製造を行っています。令和元年度は二百頭以上がジビエとして利用され、全て放射性物質の有無を検査し安全を確認した後、県内のほか首都圏など全国へ出荷されています。

食肉についてはレストランやホテル等でのプロの調理用として、これに対し加工製品はソーセージ、ハンバーグ、鹿肉カレー、焼肉用スライスなど家庭で手軽に楽しめるよう工夫されています。

現在ジビエは社会的に認知されつつありますが、まだまだ一般家庭の食卓に普及していない状況にあります。今後は当事務所から積極的に情報発信をするほか、消費拡大に向け支援してまいります。



鹿肉カツカレー (道の駅上品の郷)

(東部地方振興事務所)

**林業体験
(わさび栽培見学)を
実施**

九月十四日(月)、登米市津山町の横山小学校みどりの少年団三年生六名を対象に、同町内のわさび栽培生産現場の見学が行われました。

生産者からは栽培施設や、栽培の工夫などの説明が行われ、児童たちは真剣な表情でわさびの栽培生産について学んでいました。



わさび畑の見学

また、県の職員からはわさびの栽培現場である森林について、温暖化を防ぐ役割や木材を扱うことの重要性の説明をします。

したが、わさびを含め、様々な恵みをもたらす森林の大切さを理解してもらえた様子でした。見学後は生産者からわさびの海苔巻きが振る舞われました。辛さが苦手な子からも「爽やかな辛さで食べやすい」との感想を聞くことができました。



栽培されているわさび

本体験を主催した津山町林業研究会では毎年、県内の工業高校や小学校を対象としたインターンシップや林業体験を開催しています。今後も登米地域事務所では若い世代に対し、森林や林業の重要性を普及する活動を支援していきたいと思えます。

(東部地方振興事務所
登米地域事務所)

宮城県図書館「情報エントランスみやぎ」への出展について

令和三年一月十九日(火)から二十八日(木)までの十日間、宮城県図書館一階エントランスにて、林業技術総合センターの研究や業務内容を紹介する「情報エントランスみやぎ」が開催されます。

新型コロナウイルスの影響により、例年十月に開催していた「センター施設一般公開」が中止になり、また「試験研究普及成果発表会」が規模縮小となるなど、一般県民向けのPRの機会がなくなることから、急遽出展することになりました。



宮城県図書館一階エントランス

ポスター展示のみの内容となりませんが、林業技術総合センターが行っているツーバイフォー材など最新の試験研究や、少花粉スギ、マツノザイセシチュウ抵抗性クロマツなど、森林や海岸林に植栽する苗木や種子生産の状況を、分かり易く紹介しますので、お近くにお寄りの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

現在、センターの敷地内では、本館及び研修館の改築工事がスタートし、冬の訪れとともに毎日少しずつ景色が変わっています。順調にいけば、来年は、新しい建物での一般公開が開催できると思いますので、しばらくお待ちください。



林業技術総合センター新館(予定)

(林業技術総合センター)

令和三年度 宮城県森林インストラクター養成講座 受講生募集

森林学習や自然観察の指導、森林づくり活動を通して、森林・林業に関する正しい知識の普及活動を行う森林インストラクターを養成する講座の受講生を募集しています。

- ① 申し込み資格 令和三年四月一日現在で満二十歳以上の県内在住で、受講終了後に森林学習や自然体験の指導等に積極的に取り組むことができる方
- ② 募集人員 四十人程度
- ③ 受講期間 令和三年五月から令和四年一月までの主に土曜日、日曜日又は祝日の十八日間(このほか、開講式五月、認定試験二月及び認定証授与式三月があります。)
- ④ 講座内容 森林・林業、動植物、野外活動等に関する知識・技能習得のための講義と実習。
- ⑤ 受講費 無料(予定)
- ⑥ 申込方法 令和三年二月十二日(金)までに、申込書・履歴書・八百字程度の小論文(志

望動機と抱負)・返信用封筒(八十四円切手貼付)を同封し、県自然保護課へ提出して下さい。

⑦ 認定までの流れ 一次試験(小論文)及び二次試験(面接)に合格すると講座を受講できます。全十八講座のうち、八割以上出席した方が認定試験の受験資格を得られ、試験に合格した方が宮城県森林インストラクターとして認定されます。

⑧ 認定後の活動について 各種ボランティア団体への加入や、当講座の認定者で組織する「(特非)宮城県森林インストラクター協会」では、企業・学校の森づくりや海岸林整備、緑化イベントの指導など、幅広い活動を行っています。



森林インストラクター養成講座

⑨ その他 新型コロナウイルスの感染状況等により中止等となる場合もあります。(自然保護課)

木材市況の動向

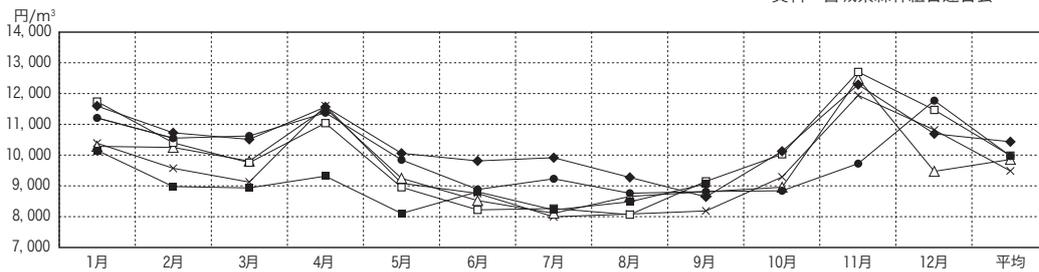
表1 各共販所別木材市況(令和2年9月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~30	9,500	—	—	—	—
	4.00	10~13直曲	7,200	—	8,500	9,000	—
		14~18	9,000	—	8,500	9,000	—
		20~28	—	—	—	—	—
		30上	—	—	—	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	9,000	—	9,000	9,720	—
		30上	9,000	—	9,500	9,720	—
1.95	18上	—	—	—	—	—	

資料: 宮城県森林組合連合会

概況

素材動向
・素材価格は若干上昇傾向にある。



△ 平成27年
× 平成28年
□ 平成29年
◆ 平成30年
● 平成31年
■ 令和2年

素材: 県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

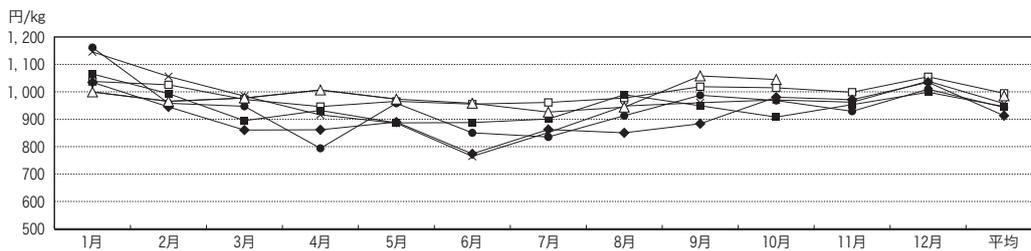
単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044		

資料: 仙台中央卸売市場

概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、全国的な品薄状況を背景に平成26年次から平成30年次の平均単価は4年連続で、900円代と、震災前の平均価格を上回っている。
・なお、令和2年度10月時点で、県産しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年度を上回っている。



× 平成27年
□ 平成28年
◆ 平成29年
● 平成30年
■ 平成31年
△ 令和2年

図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和2年9月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和2年9月(戸)	1,318	1,061	257	80.5
令和元年9月(戸)	1,159	977	182	84.3
前年同月比(%)	113.7	108.6	141.2	—
令和元年10月~令和2年9月(戸)	15,102	10,729	5,683	71.0
平成30年10月~令和元年9月(戸)	18,824	13,141	4,373	69.8
前年同期比(%)	80.2	81.6	130.0	—

資料: 住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数
・9月の新設住宅着工数及び木造戸数は前年を上回っている。木造率は減少した。
・累計比は前年を下回っており、木造戸数は前年を下回っている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所



坂元植林合資会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

地域との共生
「めぐるめぐみ」をテーマに
私たちは自然を愛し、
大切に育てていきます。



〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小澤 幸三
理事 石田 竜也
監事 阿部 貢夫
監事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械



筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261 〒980-0013
📄 (022)265-9231 仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

木のある豊かな暮らし 暮らしの木造・木質化を応援します！



- ・木の家づくり・街づくりにJAS製材品をおすすめします
- ・品質が良く、性能の明確なJAS製材品を使えば安心です

JAS 構造材

宮城県木材協同組合

理事長 千葉 基 tel:022(233)2883

住んでよし! 建てて満足! 「優良みやぎ材」の家



優良みやぎ材、県産材等についてのお問合せは

みやぎ材利用センター

仙台市青葉区東照宮1-8-8

- ▶本部/宮城県木材協同組合 tel:022(233)2883
- ▶建築資材部/宮城木材文化ホール tel:022(239)2661

スゴいぞ みやぎの木のチカラ! 公共建築物や店舗・事務所等の木造・木質化を進めたい

今、みやぎの森林は、年間消費の70年分を蓄積するまでに成長しており、今後はこの豊富な地域資源を有効に利用しながら森を育て、併せて災害防止など森林の多面的機能を向上させていくことが大切です。

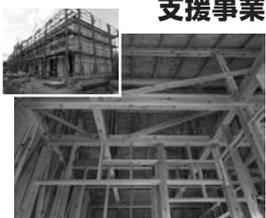
国は、木材需要の一層の拡大に向け「公共建築物等木材利用促進法」を施行して公共建築物の木造化に率先して取り組んでおり、県内でも大崎市などにおいて地域材によるJAS製材品やCLT(※)を使用して公共施設の木造化を進める取組が進んでいます。

※CLT(直交集成板:板の層を直交するように積層接着した厚型のパネル)

カーボンニュートラルとされる木材は、高い断熱性や調湿性など材料としても優れているほか、ストレスや疲れを抑えるなど生理的・身体的な効果もあることが科学的に明らかとなっています。私たちは、地域の多くの人々が普段から利用する公共施設や店舗、事務所等を木造・木質化していくことに大きな意義があると考え、その実現に向け、宮城県をはじめ地域の皆様と連携してまいります。

宮城県木材協同組合の取組例

JAS構造材利用拡大 支援事業



アパート建築における
JAS材の利用

外構木質化 支援事業



門扉(塀)の木質化

宮城県からの支援(事業例)

「Wood・もっと・みやぎ」 県産材需要創出事業(募集中)

- ▶宮城県産の木材・木製品を活用し、店舗・事業所等の改築や木製品の導入に取り組む事業者に最大150万円(事業費の3/4)が支援されます。



問:宮城県建築士事務所協会 tel:022-223-7330
宮城県林業振興課 tel:022-211-2912

宮城県木材協同組合・みやぎ材利用センター 理事長 千葉 基 <https://miyagi-wood.jp/>

森林は大切な資源です 森林整備を通して 美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>



緑の募金

にご協力ください!

公益社団法人 宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL 022(301)7501
FAX 022(301)7502
<http://miyagiryokusui.com>

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)^{もりちから}等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166 仙北地区木材センター 0229-72-1877
大衡総合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ,
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌 **令和3年度の購読申込受付開始!!**



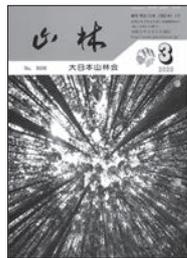
GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501

FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課

☎022-222-3011